

韓国高校生を対象とした三段階システム技法による参加型災害シナリオワークショップ Disaster Scenario Development Using the Sandankai System for a High School in Korea

○羅貞一・岡田憲夫

○Jongil NA, Norio OKADA

This paper introduces a new type of participatory workshop method for disaster education to improve the risk awareness of disaster. A method called the Sandankai system, originally developed by the co-author, is presented for this purpose. This method is designed to consist of the three time phase charts: within two days, within two weeks, and within two months after disaster situation. As demonstrated in a case study carried out in a class of high school in Samchuk city, Kangwon Prefecture, Korea, this method shows its usefulness to improve the risk awareness of disaster reduction in a community.

1. はじめに

近年、地域コミュニティの地域防災力と防災意識の向上のために参加型ワークショップという体験学習のリスクコミュニケーション技法がよく活用されている。自助・共助に代表される地域コミュニティの取り組み能力を平常時の防災活動に備えていくためには災害の特殊性や地域コミュニティの特性を考慮した参加型ワークショップは有効である。しかし、既存の参加型ワークショップ手法は、ファシリテーターが設定したシナリオに沿って個人レベルの災害発生直後の行動判断などへの気づきを促すリスクコミュニケーションに重点を置いていたため協働的な行動計画づくりの学習体験までには至らなかった。

本研究で紹介する三段階システムは、このような観点から2008年に岡田により着想・提案され地域コミュニティの現状を参加者自ら診断と設定しながら、実行可能な行動計画案を共同の協働作業で立てるツールやプロセス技術として開発され2008年12月鳥取県智頭町の山郷地区に導入された。

日本の隣国である韓国は、2002・2003年の水害をきっかけに2004年消防防災庁ができて国レベルの防災対策と共に、市民向けの防災活動も実行されているが、青少年を対象にする防災教育分野では参加型ワークショップは、まだ行っていなかったため、三段階システムワークショップの実施は、参加者の防災分野への関心と防災意識の向上はもちろん、日本の防災知識の現地化に対する韓国への初めての試みである。

2. 三段階システム

「三段階システム」は、災害という非常時の状況を想定して、災害発生後の一日・一週間・一ヶ月の三段階の時間系列で参加者の地域コミュニティにはどんな状況が起こるか、またその状況を乗り越えるためには何が必要で参加者は何ができるかを、個人の視点、さらには地域コミュニティの視点まで拡大して相互補完的な対策案を議論する参加型リスクコミュニケーションの技法である。

既存の、防災教育向けの参加型ワークショップ手法の多くが、災害発生直後に限定した個人行動の判断を中心に、災害状況などを設定したことに対して、本三段階システムは、時間系列では、災害発生後の直後（一日）の生存領域から、暫く後（一週間）・さらに後（一ヶ月）の災害後の生活復旧領域まで扱っている。また、行動主体としては、個人から地域コミュニティまでの相互協働の行動対策までを考慮している。さらに、既存の手法の大抵では、参加者はファシリテーターが事前に決めた状況設定だけに従ったが、本手法では、ファシリテーターが災害発生状況のシナリオの概略を用意するとともに、具体的状況の決定は、参加者に想像させ、ファシリテーターと参加者の質問に応じて追加的に特定するやり方を持つ特性を持っている。これにより参加者の地域コミュニティにあり状況設定と実現可能な行動対策により近づくことができる。

実例として、2009年12月23日に韓国、三陟市の三陟高校の二年生を対象に行われた「水害シナリオの行動計画づくり」を取り上げる。